

市長と語る地域懇談会

市民と歩む新しい鴻巣



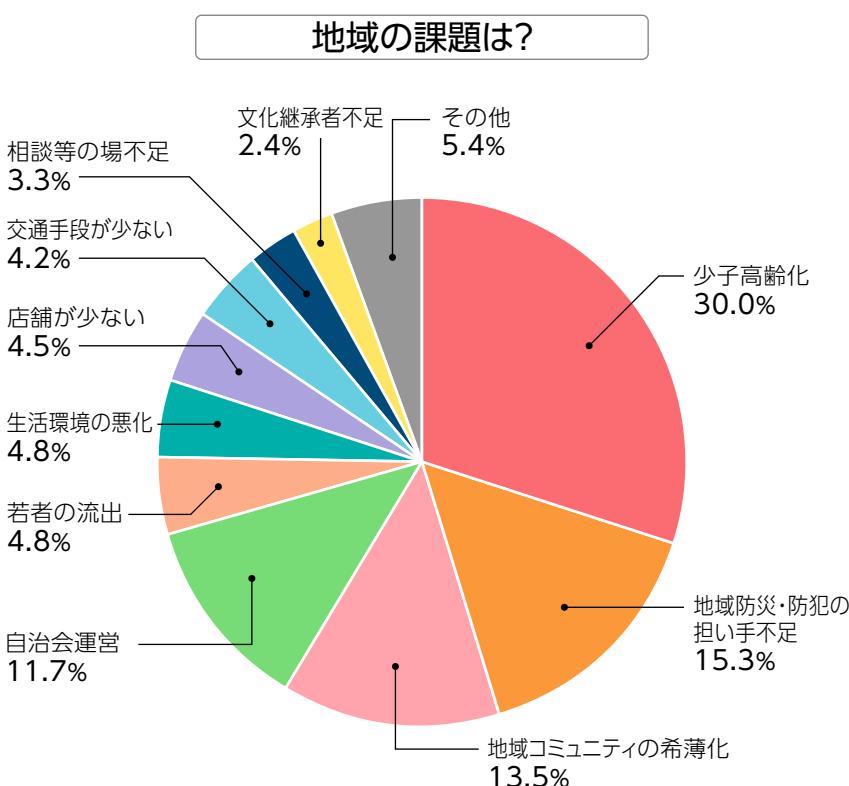
地域の課題を共有し、その課題解決に努めるとともに、地域住民と行政とのつながりを強めるため、10月5日から11月22日にかけて、市内10地区で「市長と語る地域懇談会」を開催し、自治会長を中心に総勢145人が参加しました。

懇談会では、

市長が市政の概要について説明し

た後、「持続可能な自治会活動について」、「防災対応力の向上について」、「地域コミュニティ活動やイベント活動における多世代参画について」などをテーマに市長と参加者、そして参加者間で活発な意見交換が行われました。

問合せ 総合政策課
(内線2236)



懇談に先立ち、お住いの地域の課題について、事前アンケートを実施しました。当団は、地区ごとのアンケート結果を参加者で共有して意見交換を行いました。

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にななりません

地域懇談会での主な意見

各地区の懇談で寄せられた意見を抜粋して紹介します。

一 地域「ミニ」ティの醸成

自治会 自治会活動として、コミュニティの醸成をどこまでやつたら良いのか。若い世代へのアクションに悩んでいます。

自治会 小さい自治会での話となりますが、地域コミュニティを強化するため、広報紙をただ配付するのではなく、併せて声掛けをしています。自治会内の木の伐採などもメンバーと一緒に協力しながら活動しております。の信頼関係が築けていると思います。

市長 若い世代の自治会への加入は、大変難しい課題と捉えています。時代が変わる中で、行政としても皆さんとともに協力していきたいです。

自治会 自治会の中に「サポート隊」をつくり、拍子木を力チカチ鳴らしながら巡回しています。家の中にいても聞こえるので防犯活動をしてく



自治会 防犯意識が高いことを示すため、公園で遊んでいることも達に挨拶をしています。泥棒は挨拶されることを嫌がると思うし、地域での挨拶は大切です。

れているという安心感があるという声も寄せられています。きれいな街には犯罪が少ないので、ごみを拾いながら活動しています。

自治会 アメリカの犯罪学者が「割れ窓理論」を唱えていて、割れた窓ガラス一枚を放置しておくと、その街はだんだん廃れていくと言われています。この取組は非常に大切だと感じています。

れる窓理論」を唱えていて、割れた窓ガラス一枚を放置しておくと、その街はだんだん廃れていくと言われています。この取組は非常に大切だと感じています。

市長 市では自治会活動事例集を作成し、市のホームページに掲載しています。今後もリニューアルしながら良い事例を紹介しますので、活動の参考にしていただきたいです。



一 持続可能な自治会活動

自治会 自治会役員は男性が多いと思います。持続可能な自治会活動のため、自治会内に女性の意見を取り入れられるように、女性に理事になつていただきたいと考えています。

自治会 地域での防犯パトロールの際に男性だけでは続かないと思い、女性も一緒に活動しています。自治会内の色々な情報も共有できますし、自治会の他の活動にも協力していました。

市長 担い手の裾野を広げていくことが、持続的な自治会活動にとって大切だと思います。



鴻巣市長 並木 正年

地域の声が まちづくりの原点

参加者の皆さんには、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

今回の懇談会では、地域の課題や将来のまちづくりに関する多くのご意見をいただきました。皆さんから寄せられた貴重なご意見は、市政運営に活用し、より良い地域づくりに取り組んでまいります。

今後も市民や地域の皆さん、事業者の皆さんとの対話を重ねることで、連携をさらに強固なものとし、市民と歩む「新しい鴻巣」の実現にむけて一歩ずつ進んでいきたいと考えていますので、引き続きのご協力をお願いします。